

「節約志向」「選別消費」をキーワードとした消費環境を味方につけて、生活必需品を中心にシェア拡大。価格競争を先導して、顧客支持率が上昇した結果、当2Qも増収増益決算！

マクロ統計における実質消費支出はマイナスが続いており、消費者マインドの冷え込みを証明。さらに天候不順や円安などによる食品価格の上昇が、生活防衛色を濃くする状況下において、既存店売上高は2.1%増と力強い成長を実現。主力のドン・キホーテとNew MEGAを中心に16店を出店した結果、会社予想を上回る増収増益を達成し、2Q最高益を更新しました。

## 売上高

4,177 億円

食品や日用消耗品などの「生活必需品」に対する強いニーズが、売上高増加を牽引。気温の変動が、季節家電や衣料品などの季節商品の需要を喚起して好調に推移。さらにインバウンド消費は、化粧品・医薬品などの消耗品を中心に順調に拡大。売上高は4,177億円(前期比8.6%増)となりました。

## 営業利益

263 億円

既存店の力強い成長及び順調な新規出店が増収効果を発揮して粗利益が増加。順調なインバウンド消費も上乘せ。販管費は、新規出店に係る初期費用や地代家賃負担があった一方で、既存店における人件費増加は、生産性向上策が奏功したことで、概ね一巡。これらのことから営業利益は263億円(前期比3.0%増)と2Q最高益を更新しました。

## 経常利益

269 億円

営業増益に加えて、受取利息及び配当金の増加を主要因として、営業外収益が前期比5億円増加するなど、営業外収支戻が6億円のプラスになった結果、経常利益は269億円(前期比4.1%増)となり、2Q最高益を更新しました。

## 当期純利益

165 億円

税金等調整前純利益が269億円となる一方で、法人税等75億円、非支配株主利益30億円の控除により、親会社株主に帰属する四半期純利益は165億円(前期比15.6%増)と2Q最高益を更新しました。

## 総資産

6,289 億円

前期末と比較して現預金151億円増、新規出店16店などに係る商品53億円増及び有形固定資産77億円増並びに投資その他の資産291億円増などにより、総資産は6,289億円(前期末比684億円増)となりました。

## 純資産

2,654 億円

利益の積み増しなどにより、純資産は2,654億円(前期末比209億円増)となり、自己資本比率は39.3%(前期末比2.0pt低下)となりました。一方で、積極的な店舗出店を実施し、設備投資の一部はデット調達で賄ったため、ネットD/Eレシオは0.48倍となりました。引き続き、効率性と安全性のバランスに留意した財務戦略を行っていきます。

## EPS

104.09 円

1株当たり当期純利益(EPS)は、104.09円(前年同期比14.04円増、15.6%増)となりました。

## ROE

13.1 %

株主資本当期純利益率(ROE)は13.1%(同0.3pt低下)となりました。

## お買上客数

1億 6,651 万人

当社グループ各店舗をご利用いただきましたお客さま(レジ通過客数)は、1億6,651万人(前期比1,359万人増：8.9%増)となり、高い伸びを示しました。

## 店舗数

354 店

新規出店はドン・キホーテ7店、New MEGA7店、MEGA1店、ドイト1店の合計16店舗となりました。グループ全体の店舗数は鳥取県に初進出を果たし、本州を全制覇したことから、国内45都道府県340店舗、米国の14店(ハワイ州5店、カリフォルニア州9店)を合わせると354店舗となりました。

## 売場面積

982,935 m<sup>2</sup>

2016年12月末時点の売場面積は、新規出店16店などにより、前期末と比較して38,950m<sup>2</sup>増加し、982,935m<sup>2</sup>(前期末比4.1%増)となりました。

## 中間配当金

5 円

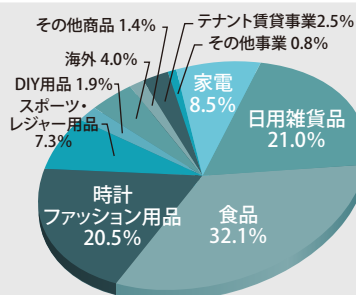
20配当金は1株当たり5円と決定しました。なお、20配当金を含めた年間配当金は1株当たり23円を予定しております。

## 商品点数

11億 3,197 万点

当社グループが20期間にお客さまの手元にお届けした商品点数は11億3,197万点となりました。

## 商品分類別売上高構成比



## 外国人持株比率

72.2 %

外国人株主の持株比率は72.2%と前期末比0.8pt減少しましたが、高い水準を維持しています。なお、株主数は前期末に比べて1,289人減少し、8,558人となりました。

## 株主分類別持株数構成比

